

**東京藝大×JR東日本 上野駅ギャラリー「CREATIVE HUB UENO "es"」
堀越優希個展「質感の建築図」開催のお知らせ**

CREATIVE HUB UENO "es" では、堀越優希個展「質感の建築図」を、2026年7月21日（火）～8月30日（日）まで開催いたします。

本展示は「質感の経験」をテーマに、建築の設計活動と並行して描いてきたドローイングとその解説を行います。建築やランドスケープの概念図として、あるいは絵本、高校教科書、コラムの挿画・装画として、それぞれ異なる目的のもとに制作された図を概観し、図と絵の間に位置する、「第三の建築図」を提示します。

<開催概要>

- 展示会名：堀越優希個展「質感の建築図」
- 会期：2026年7月21日（火）～8月30日（日）
- 休場：月曜定休（祝日の場合は翌日に振替）※8月10日（月）～17日（月）夏季休業
- 時間：11:00～19:00（最終入場18:45）
- 入場料：無料
- ウェブサイト：<https://ueno-es.jp/>
- 会場：CREATIVE HUB UENO "es" 東京都台東区上野7-1-1（上野駅浅草口付近）

□推薦コメント

建築家のドローイングって、何？そもそも作品なの？それとも構想過程のスケッチ？施主に説明するため？それって設計図とは違うの？じゃあ完成予想図？？

きっと「？」が止まらないと思います。たぶん全部正解です。そしてどれも少し違う。建築家、堀越優希のドローイングを見ると、そんな「？」がスッと消えていきます。そして、その視野の広がりや眼差しの深さに、驚かされるでしょう。視線は壁を透過し、目に見えない地中や、ひとつの視界に納まるはずのない景色や、流れる時間までもが、小さな静止画の中に一望できる。だからといって、専門知識も難しい理論も、必要ありません。堀越優希の建築ドローイングの世界を、ぜひ楽しんでください。

東京藝術大学美術学部建築科 教授 中山英之

□作品ジャンル

ドローイング(建築・ランドスケープ)

□主な展示作品

『横穴のインフラストラクチャ』 2025、594×420mm

■出展者プロフィール

堀越優希（ほりこし ゆうき）

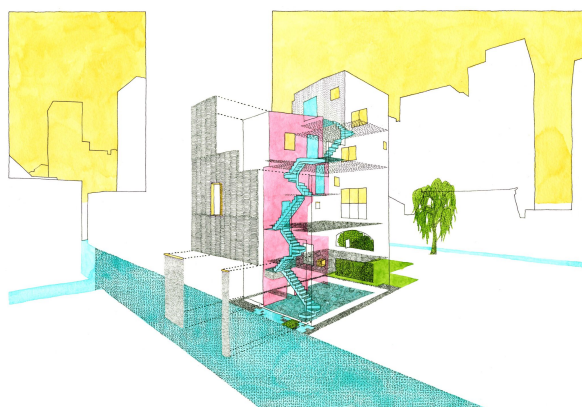
経歴

2009年東京藝術大学美術学部建築科卒。2012年同大学院美術研究科建築専攻修了。吉田五十八賞・匠美賞受賞。2021年同教育研究助手。2022年同助教。一級建築士事務所YHAD主宰。建築設計と並行してドローイングを制作。『タイルビル』設計（EIKA studio 協働）、『地球守 自然読本シリーズ』装画など。

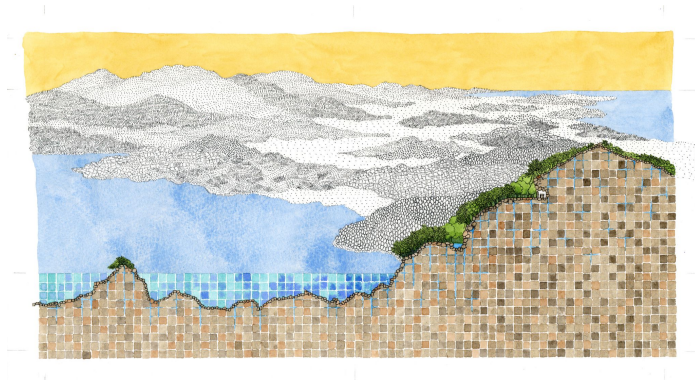
アーティストステイトメント

ある空間における質感の経験とは、視覚と記憶のなかの触覚が混ざり合い、時間の経過とともに立ち現れる複合的な感覚である。「質感の建築図」は、建築とその背後に広がる地形との関係や、ある建築に内在する主観的な連続性など、スケールや領域を横断する見えないつながりを表現するために考案した手法である。建築の経験は、気候や時間、身体の状態によって絶えず変化する。記号へと抽象化された図面や、リアルなCGによる具象的な表現だけでは捉えきれない、主観と客観が混在する状態をそのままの姿で描き出そうと試みてきた。こうした表現を通して、複雑な事象を複雑なまま立ち上がらせる建築の設計を目指している。

■過去作品



「タイルビル」 2022、水彩紙、420×297mm



「沖縄の地景」 2021、水彩紙、420×297mm